

研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

ヒト心臓の房室接合部の形態学的特徴と異常副伝導路の分布形態に関する研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2014 年から 2030 年に当院臨床病理診断科において病理解剖または医学部法医学講座で司法解剖を施行された症例施行された方

2. 研究目的・方法

ヒトの心臓では心房と心室の境界部には左右それぞれ僧帽弁と三尖弁という線維組織でできた血流の逆流を防ぐ弁が存在しています。正常の心臓ではこの線維組織により心房内の心筋と心室内心筋は完全に隔離されて心筋の連続性がなく、心臓が規則正しく動くために必要な電気興奮も心房・心室で隔絶され、唯一刺激伝導系組織と呼ばれる電気刺激を専門的に心房から心室に伝える心筋組織が心臓の中心部に存在する構造になり、心房―心室の順の収縮が行われています。しかし、胎児の時に心臓の形ができてくる過程で、何らかの異常により刺激伝導系以外の僧帽弁や三尖弁部分で心房―心室筋の連続性が生じてしまうことがあり、これにより生後～成人期まで頻脈性不整脈という脈の速い不整脈の発生源となることがあります。さらには非常に稀ではありますが、これにより突然死を来すこともあります。また、それだけでなく、房室伝導系自体の形態学的特徴により、不整脈が発生することもあります。こういった異常は心電図検査で発見できることもありますが、一般的な心電図検査では分からないこともあり、今回の研究では生前に心電図で何の異常も指摘されていなかった心臓に、潜在的に心房と心室を連続する異常な筋束が存在しないか、さらには房室伝導系に特徴的な異常がないかを解析し、潜在的な不整脈源となりうる異常の有無を解明することが本研究の目的です。方法は病理解剖検体または司法解剖による心臓を用い、病理標本作製および画像解析機器による画像の取り込みと解析を昭和大学医学部法医学講座と臨床病理診断学講座で共同して行います。本研究は学術研究であり、患者さんのデータも利用します。患者データは病院内の電子カルテの閲覧もしくは、診療録管理室にて「3. 研究に用いる試料・情報の種類」に記載した情報を取得します。取得した情報は、本研究者間のみ情報を共有します。

診療情報の利用に伴う同意取得の方法：院内掲示又はホームページによるオプトアウトを行います。研究概要（研究目的・調査内容等）を適切に通知・公開し、診療録情報の利用について適切な拒否の機会を提供します。また、本研究の一部は文部科学省科学研究費を使用して行われます。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2032 年 3 月 31 日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

病理解剖検体（病理解剖ホルマリン固定標本、病理解剖ホルマリン固定パラフィン包埋ブロック、病理解剖ガラス標本）、病理解剖診断に付随する資料（病理解剖番号、病理解剖申込書、病理解剖報告書、病理解剖プロトコル(所見記載用紙)、検体肉眼画像、検体組織画像など）と生前の情報（カルテ番号、年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）、臨床検査結果（血液・生化学検査結果、X 線、MRI、超音波検査画像、心電図検査）

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6. 研究組織

研究責任者 昭和大学医学部法医学講座 松山 高明

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学医学部法医学講座 氏名：松山 高明

住所：東京都品川区旗の台 1－5－8 電話番号： 03-3784-8140